



森の守護神

森ボラ 通信

第236号 2022年1月20日発行

NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター

TEL (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com



2022年 新春



森ボラは更に前進する。

理事長 横山 清

明けましておめでとうございます。令和もはや4年目となりましたが、コロナウイルスの変異種オミクロン株の蔓延などでコロナとの闘いはまだまだ続くと思わなければなりません。

今年は北海道森林ボランティア協会が創設されてから満20周年を迎える記念すべき年であります。

20年前に植えた木々は確りと大地に根を張り、成長しております。私達も、力と心を合せて「自然と共存して環境を守る」運動を更に強固なものにしなければなりません。

経済界や産業の分野でも地球温暖化対策があらゆる場面で最優先の課題です。現在から未来にかけての重要テーマはSDGs、「持続可能な開発計画」となります。

私達が何の対策も講じなければやがて地球の平均気温は4度も上昇し、最悪の場合には日本も熱帯地方化するといわれておりますが、これまでの20年よりも、これからの20年の方が世界は早く大きく変化することが予想されます。

それだけに私達は今まで以上に努力を傾注し、自然環境の変化に的確に対応し、新しい仲間を増やし、安心・安全で住みやすい地球環境づくりに邁進いたしましょう。

◆ 応急手当・救命措置の講習を受講

札幌に今冬初の”ドカ雪”が降った2021年12月17日、公益法人札幌市防災協会の協力・指導の下に「応急手当と救命処置」講習会が、森ボラの事務局が入るラルズ生活研究センターの2F会議室で、14時～17時までみっちり3時間行われ、協会員18名が受講しました。

講習会では主に以下の内容で体験・指導を受けました。

- ① 応急手当では、参加協会員一人一人が、人形を使い胸骨圧迫による心肺蘇生の実技指導を受けながら基礎を学びました。救急車が来るまで行う心肺蘇生は、両手で間断なく胸骨圧迫を続ける必要があります。
- ② 救命処置では、①同様に参加協会員一人一人が、人形を相手にAEDを使った心肺蘇生の実技指導を受けながら基礎を学びました。

終わって、参加者には名刺サイズの「普通応急手当講習修了証」が手渡されました。講習は2～3年間隔で定期的に受講するのが望ましいとのこと。 (文・三橋)



講習会の様子



AEDの操作手順を習いました

◆ 今季整理伐開始にあたり、伐木安全講習を実施

1月11日(火)、澄川環境林にて新年のあいさつを交わしながら、管理地区の机や椅子及び小屋屋根の除雪を行った後、恒例の「伐木安全講習」を行いました。

座学では大窪さんを講師に安全に伐倒を行う注意事項を確認しました。

- ・チェーンソー操作者は安全装備としてチャップス(安全防護着)、保護メガネを必ず着用すること
- ・伐倒時の合図は受け口を切る前に1度、追い口を切る前に1度、完了時に長笛を1回吹き、安全確認者が周囲を確認してその都度笛を吹く
- ・掛り木処理は経験が必要。安衛則478条の禁止事項を理解すること
- ・道内でも高齢で経験者の事故が多い。災害事例を確認



屋外での座学の様子

その後、矢澤さんを講師に、チェーンソーの取り扱い方、始動時の注意事項を受講し、ロープの結び方(もやい結び)を皆で確認しました。

現地実習は3小班D-3区であらかじめ選定した、クリの株立の1本を伐倒対象としました。伐倒方向は重心、枝の張り具合、枝絡み、ツル絡み等を考慮して斜め下方とし、安全管理者との笛のやり取り後に受け口を作りました。その後に追い口切りを行いました。倒れる途中で他の木に掛り木となりました。掛り木処理ではもやい結びをしたロープを根元から4.5mの

ところに掛け、皆でゆすりながら引っ張りました。途中まで落ちましたが、今度は枝が隣接する木に引っ掛ったので、最後は根元を上方に引っ張ると無事に倒れました。やはり掛り木を倒すにはロープの結ぶ位置、引っ張る方向などの経験が重要と思いました。掛り木処理には当会でも行っているチルホールを使うなど様々な方法があります。現場状況を良く把握して最適な方法を採用します。次に枝払い、玉切りをして実地講習を修了しました。



今年から脱炭素とSDGsの考えから、直径15cm以下の幹や枝は手ノコを使用するのが原則としました。『安全、確実、ゆっくり』と森ボラ活動を楽しみましょう！

(文・檀棒)

← ロープを使つての掛り木処理

◆ 活動始めは除雪から

2022年の活動始めは1月11日で、例年通り12月の活動納め以降に積もった雪の除雪から始まり、広場、小屋屋根を綺麗にしました。しかし、無情にも、その後12日から14日にかけて3日間雪は降り続き、しかも重たい湿った雪で、15日はまたまた広場の除雪、小屋屋根の雪下ろしに一汗も二汗も掻くこととなりました。

森の木々も重たい雪を乗せて傾いたものや枝折れしたものが多くあり、苗畑を囲った食害防止網も無残な姿を見せていました。(文・清澤)



1mは積もった第二小屋屋根の雪下ろし

■ 澄川の自然 29

コナラ (ブナ科コナラ属)

澄川の森にコナラが自生していますが、未だこれがコナラの木だと特定できていません。

物置小屋の広場からB-7地区東側縁の小路をB-5地区へ向かう左手の林にミズナラと混在しています。

少し上り坂で、右肩下がりの木の根がゴツゴツと地表に露出しているこの小路を、秋にミズナラ、コナラ、ホオノキの落葉をガサガサ言わせて歩くのが私は好きです。でもまだコナラと特定できた木を見付けられていません。

葉は単葉で互生、葉身はミズナラよりずっと小さく、雌雄同株。ミズナラの葉柄はほとんどないがコナラは約10mm位有ります。コナラ属は全て花粉を飛ばす風媒花。昆虫に花粉を運んでもらう必要がないため花は小さく目立たず、香りもありません。これはブナ科の共通する性質です。

(写真/森林総研・文/西野(澄)) ※参考文献/ドングリと松ぼっくり



コナラ

新入会員の紹介～よろしくお願ひします！

まつい しんじ
松井 慎次 さん (51歳)

12月初めに体験参加して、澄川の森と優しいジジババに迎えられて即入会を決意しました。毎回参加したい気持ちは十分なのですが、持病で人混みが苦手、朝の混んだ地下鉄に乗る事が一大試練となっています。頑張つて澄川までたどり着いた時は、みなさん、是非温かい言葉をかけてください。

■ 今月の幹事会

出席者(1/7):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・佐野・釣井・西野(澄)・松藤・三橋・矢澤・矢野

1. 2022年2,3月スケジュール(2月幹事会2月9日(水)):コロナの状況を注視、セミナー後の懇親会中止。
2. 2021年12月会計報告と今年度決算予測:了承。
3. 2021年度森林・山林多面交付金事業12月の活動報告:消耗品購入は終了。
4. 澄川都市環境林の今後の在り方、札幌市との協議結果:1月の会員例会にて報告。
5. 2022年度親子森林教室の参加予定者:継続9名、新規7名、計16名。
6. 親子森林ボランティア制度(コモドの森)について:さらに内容を詰めて試行する。
7. 名誉会員制度について:在籍20年、年齢80歳以上を対象。定款の変更を伴う予定。
8. 現場報告
 - ・澄川標準木調査中間結果:A,B,C,E-6-1地区の162本の調査終了。
平均1年当り成長量は直径0.47cm、樹高0.33m、材積0.028 m³となった。
樹種別ではハリギリ、キタコブシ、シラカンバ、ミズナラの成長が著しい。
9. その他
 - ・次年度の主な活動計画:20周年記念行事9/25(日)。その他若干の修正。
 - ・20周年記念専門委員会第6回打合せ
 - ・1/11伐木安全講習:講師は会員(大窪、矢澤他)
 - ・備品・装備品の購入:ヘルメット、カメラ、スノーシュー、刈払い機、チャップス等を予定。
 - ・森ボラ救急対策等の徹底:「あんぜん手帳」の配布。会員例会等を通じ周知。
 - ・助成申請関係:太陽財団助成決定、他1件を申請準備中。

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
12月16日(木)	澄川	20	標準木調査、D-1区整理伐(手ノコ)
12月17日(金)	ラルズ生活研究センター2F	18	第1回冬季セミナー(普通応急手当講習I)
12月20日(月)	澄川	23	標準木樹高調査、見廻り、活動納め
1月7日(金)	ラルズビルB1会議室	12	幹事会
1月11日(火)	澄川	20	活動始め、伐木安全講習、ロープワーク、除雪
1月12日(水)	バスセンタービル 札幌市 みどりの管理課	4	澄川環境林の今後のあり方に関する協議 (ボランティア団体への支援、他団体との連携等)
1月15日(土)	澄川	14	除雪、D-5区への踏み後付け、整理伐(手ノコ)